

目的・目標

目的：盲ろう幼児児童生徒に対する指導実践事例の集積・整理をもとにした盲ろう幼児児童生徒に関わる教員のための研修プログラムの開発。
目標：全国の視覚・聴覚支援学校175校を対象としたアンケートによる実態調査および、訪問調査による事例の集積・整理

取組概要(研究テーマ：A 盲ろう児を担当する教師に対する研修の在り方)

1. アンケート調査

全国の特別支援学校(視覚障害・聴覚障害)175校を対象として、郵送による質問紙調査を実施

実際の対象校175校(特別支援学校(視覚障害)67校・(聴覚障害)108校))
回収率 全体:61.7%(特別支援学校(視覚障害)63%・(聴覚障害)61%))
盲ろう児が在籍の特別支援学校(視覚障害・聴覚障害)は34校 人数52人

2. 先行研究校や取組みを実践している学校、弱視難聴児童生徒が在籍している学校への訪問調査

- ・先行研究校学校等への視察訪問→山梨県立盲学校・横浜訓盲学院への視察訪問
- ・弱視難聴児童生徒が在籍している学校への訪問調査
- ・アンケート調査結果より弱視難聴児童生徒の在籍が多いことが把握された弱視難聴幼児児童生徒在籍校に訪問調査
訪問校:北海道高等聾学校・札幌聾学校・青森聾学校・一宮聾学校・大阪南視覚支援学校・生野聴覚支援学校・奈良県立盲学校・久留米聴覚特別支援学校

3. アンケート調査に協力のあった特別支援学校に中間報告の送付

4. 調査結果の整理と指導法等の集積・チェックリストの作成

アンケート調査結果から得られた支援の方法、相談体制、関係機関との連携などについて整理するとともに、指導法等を集積し、先行研究との比較検討。特別支援学校(聴覚障害)では、担当教員のニーズとして、視覚障害に関する実態把握や支援方法のチェックリストの必要性が示唆されたため、チェックリストを作成

5. 研修プログラムの作成

アンケート調査結果の「課題に感じる点」の多くに「専門家の助言がほしい」「専門性を高める研修会が必要である」という意見があり、また先行研究校への訪問等を通して、盲ろう教育の専門性や重度重複の盲ろう児童生徒への実践についての研修の必要性が示唆された。そのため、特別支援教育総合研究所および横浜訓盲学院に研修動画の作成を依頼し、協力を得て動画研修資料を作成

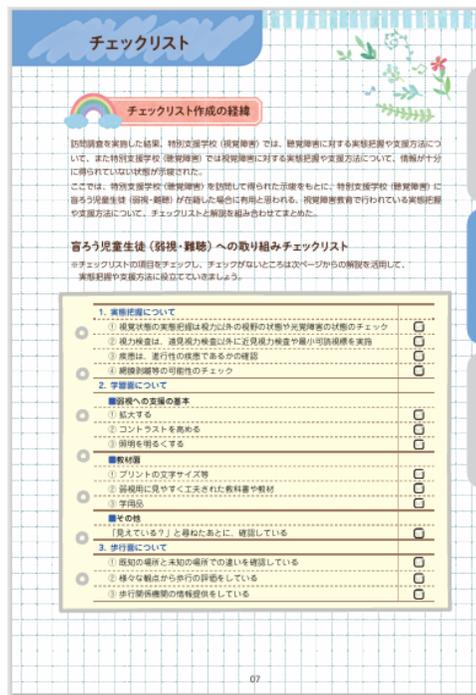
6. 報告書の作成

2年間取組んできた成果のまとめとして、調査結果やチェックリスト、研修動画資料を掲載した最終報告書を作成し、全国の特別支援学校(視覚障害・聴覚障害)および全国の教育委員会に送付。また最終報告書および研修動画はWebで公開

- ①盲ろう児児童生徒担当教員への視覚障害教育・聴覚障害教育双方の情報の必要性を鑑み、特別支援学校で弱視難聴児童生徒の担当教員が視覚障害に関する実態把握や支援方法についてチェックできるリストを作成した。
- ②特別支援教育総合研究所・横浜訓盲学院の協力のもと、先進的取り組みを含めた研修動画コンテンツを作成し、Webで公開した。
- ③実施したアンケート調査と、上記①チェックリスト②動画コンテンツを含めた最終報告書を作成し関係機関に送付した。



報告書 https://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~tokushi/dl2/final_report.pdf



本事業
の成果

課題と
今後の
展望

- ①視覚支援学校の担当者が聴覚障害教育の情報を確認できるチェックリスト等の作成
- ②海外の盲ろう児童等に関するチェックリストの翻訳や比較研究を進める必要性
- ③特支(視・聴)の連携のシステムの整備を進める必要性 ④動画コンテンツを含めた専門性を学ぶ機会の充実